

—牧師室から—

神学生時代から無二の親友であった工藤幸紀牧師が召されて、今日九月八日で満三年になる。彼は弘前の東奥義塾高校の宗教主任として素晴らしい働きをしていた。体調を崩し検査したところ、直腸癌が腹部全体に転移し、処置できない状態になっていた。医者は三か月の命であろうと診断された。彼の病状を、やはり同級生であった弘前教会の最上光宏牧師から電話で聞き私は言葉を失った。工藤夫妻は医者との診断結果を正直に話す約束をしていたので、奥さんは望みない病であることを告げた。彼は「そうか」と一言だけ答えたそうである。医者の言葉通りそれからちょうど三か月、彼は迫り来る死を見据えて闘い、49歳の若さで逝った。私は二度しか見舞えなかった。一度目の時は、体力がないので数回に分けて、短かい時間ながら話し合えた。病弱な奥さんと三人の子供を残して逝くことの申し訳なさを訴えたが、自分の死については、本当に受容し、みじんの不安も持っていなかった。

二度目に見舞った時は、声が出ない状態にまで悪化していた。私は「僕が死ぬ時、君に見舞いに来てもらえないね」と言ったら、サインペンで「天国のドア・マン」と書いてくれた。死を目前にしてその死を潜り抜けた大いなるユーモアをもって、逆に私を慰めてくれた。私はどんな生涯で終わろうとも、彼が天国のドアを開いて「秋吉君、よく来た」と言って迎えてくれる。思い出す度にうれしく彼との友情の中でいただいた最高の言葉、私の宝である。

私が死を迎えた時、彼のようにではなく、恐れおののき醜態をさらすかもしれないが、それでも良い。ただ、地上における肉体の死が終わりではなく、キリストの復活が約束している神の永遠の命への始めであることをしっかりと信じていたいと思う。彼の奥さんから神様に守られて無事に暮しているこの日を覚えて祈ってほしいと手紙をいただいた。神に委ね切った平安な彼の病床の姿を思い出しながら祈った。そして、信仰を与えられている幸いを感謝した。

週 報

1989年9月10日 聖霊降臨節第18主日

巻 10 24号

1989年度教会主題

「神の言葉に従う」

聖句 主はアブラムに言われた。「あなたは生まれ故郷、父の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい。」……アブラムは主の言葉に従って旅立った。

創世記12章1節、4節a

- 目 標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
 2. 新会堂の建築計画を完成する。

日本キリスト教団 横浜港南台教会

会 堂 〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電話 045-833-5323

振替 横浜 9-13394

牧師宅 〒235 横浜市磯子区洋光台 5丁目-6-3-304

電話 045-833-6616

牧師 秋 吉 隆 雄